

日本労働総同盟分裂經過概要(其二)
才二 十四年夏大會より才一回中央委員

(幸御程担任)

一 関西に於ける左傾派
大正十二年二月頃、関西同盟會負三十余名は、山川
均及高津正道と會見して画策する處があり、同盟會
負中の關士の組織せる前衛隊も亦一時此の目的の
爲めに利用せらるる觀ありしと傳へられたり。然るに
大正十二年の大震災、大正十三年の國際労働代表選
出方法の變更及善選實現期の接近等より、總同盟幹
部の態度は次第に右傾して来たので、左傾派の運動
は漸く反幹部的色彩を帯ぶるに至り、中村、鍋山、
三田村、太田(大坂)、辻井、谷口、國領(京都)、青柳、
奥田(神戸)等は堅く相結ぶ如あり、關東同盟會分裂後
は、關東地方評議會と相呼應して益々其氣勢を高め